

音楽の価値を巡って

ヴァイオラ・ダ・ガンバ奏者

須藤岳史

すどう たけし



音楽は役に立つのか？というのには不毛な問いだ。なぜなら、役に立つか立たないかというのは文脈によって決まるもので、一面的な価値に縛られたものにすぎないからだ。考えてみればあらゆるものがそうだ。お金だって、それが何とも交換できなくなってしまうえば、ただの紙切れにすぎないし、都会においてサバイバル技術の出番は少ないだろう。さらに、音楽の本質的な部分は役に立つか・立たないかという価値判断の地平から離れたところにある。例えば、音楽は心を打つ。しかし、それに対する価値というのは何かに換算できるものではないし、また音楽を必要としない人にとっては、まったく価値体系の外にあるものかもしれない。そういった理由で、音楽は役に立つのかという議論を見かけるたびに、思わず「むむ」と唸ってしまうのである。

私はヴァイオラ・ダ・ガンバという古楽器の演奏を

しまう。その中で、なんとか音楽の居場所を見つけるための取り組みがなされてきたのである。

ここでは「楽器を演奏すると頭が良くなる」とか、「音楽を聴くと心身がリラックスする」とかという巷で耳目を引きがちな即物的な音楽の価値ではなく、音楽という「技術」が創生する2つの価値を紹介したい。

1つ目は「聴く技術」である。演奏を続けていると、時折、耳が開くような感覚を覚えることがある。これは、今まで自分がいかに音を聴けていなかったかに気付く体験である。音楽家は演奏家である以前に、長年にわたり訓練を積み重ねた「聴くこと」のエキスパートである。なぜなら、自分が奏でる音楽を正確に聴くことができなければ、良い音楽は生み出せないからだ。それでもなお、聴こえていた音楽が突然変化して、一段階上の聴く技術の扉が開くこ



生業としている。新型コロナ感染症の蔓延で行動が

制限され、ほとんどの演奏会がキャンセルの憂き目に遭ってきたこの2年間、音楽家たちは生活を維持するために、そして音楽を続けるために、新しい状況における音楽の新たな「価値」の創出に取り組んできた。演奏の場をオンラインへと移し、演奏動画をアップロードする人、あるいは音楽的な思考に基づくコーチングや、音楽関連のグッズの物販を展開しはじめる人もでてきた。しかしこれらは、苦しい時間をなんとか乗り切るための、いわば副次的な対処に過ぎない。

芸術に罹患してしまう割合は人口の数パーセントに及び、その数字は古代から一貫しているという話がある。人口の数パーセントとはかなりの割合ではあるが、非常時において、衣食住という生存に不可欠なものを前にすると、やはり優先順位が下がって

とがある。人は自分の知りたいことを知り、見たいものを見る傾向があるが、耳だつて同じだ。自分が聴きたいものの呪縛から逃れること、そして、よりオープンに聴く技術を磨くこと。これは対人コミュニケーションレーションにも役立つ技術といえるだろう。

2つ目は「固定観念や慣習から自由になる技術」である。どんな仕事でもそうだが、特定の業種には固有の慣習がつきものだ。もちろん慣習を学ぶことは、仕事を円滑に進めるうえで大切なことではあるが、それに絡め取られてしまい、身動きが取れなくなってしまうたり、新しいアイデアが思い浮かばなくなったりしてしまうことがあるのではないだろうか。音楽における熟練とは、型を極めていくこと、例えば、楽譜通りに正確に弾き、前もって決めてあることを演奏時に再現できるようにすることではなく、先人観にとらわれず、常に認識を更新していくことにある。なぜなら、そうでないと、演奏する音楽が死んでしまうからだ。音楽は博物館に不動のまま陳列されているものではないし、楽譜に閉じ込められているものでもない。音楽は演奏されるたびに生成される現象である。さらに、音楽の演奏は自己表現の手段でもない。演奏とは、耳を澄まし、職業的な丁寧さを持って世界に同期して、何かを顕在させる技術だ。そこでは演奏家は限りなくアノニマスな存在となる。これは、様々な仕事における熟練とも通じるものがあるように思う。自由になる時、世界は開くのだ。

時の調べ Essay

略歴
1977年生まれ。2001年よりオランダ在住。演奏活動の傍ら「三田文学」「現代詩手帖」

「図書」等に書評や随筆を執筆。共著に「未明02」「原民喜童話集」CD『The Spirit of Gambo』『The Silver Swans (STOCKFISCH-RECORDS)』『Le Jardin Secret』『Airs Séneux (Fuga Libera)』等がある。また、俳人の小津夜景との往復書簡集『なしのたわむれ』と『なしのたわむれ』(素粒社)を3月に刊行。



『なしのたわむれ
古典と古楽をめぐる手紙』
四六判 / 232ページ
素粒社ウェブショップ
<https://soryusha.stores.jp/>